



松山市窪

野町は市内

中心部から

車で30分。

里山の田園風景が広がり、ホタルの里としても知られる。美しい景色を目当てに訪れるサイクリストも多いという。

篠原さんはそうした自然に恵まれた環境で、米

や野菜を生産している。このほど

畑に太陽光発電パ

ネルを設置し、ソ

ーラーシェアリン

グを開始。「小規

模農家の所得向上

のモデルになりた

い」と意気込む。

1959年、同町の農

家に生まれ、大学卒業後

は県内の量販店に就職。

店舗勤務の他、本部でポ

イントカードの導入や物

流の仕事にも携わった。

篠原さんが会社勤めで

忙しいことを分かつてい

る窪野の人たちは、地区

の役員などの仕事を免除

してくれていた。「それ

同じよくぼのファーム

代表 篠原 英行さん

が申し訳なくて、いつか
恩返ししたいと考えてい
ました」と話す。

地域の人の高齢化がい

よいよ深刻になり、自分

が何とかしなければと会

社を早期退職し、地元で

農業をすることを決意。

とはいえ「農家の生まれ

だけれど素人同然」だっ

た篠原さんは、松山市の

農業研修施設に通

い知識や技術を一

から身に付けた。

前職の経験と人

脈で、売り先は

早々に確保できた。

現在、市内の複数

の産直市に出荷す

る他、家の軒先で

直売もやっている。

地域活動では「ホタル

祭り」の開催を目指し、

クラウドファンディング

を実施。目標金額を達成

したものの、コロナのた

め来年に延期となった。

篠原さんは計画を練る

時間ができたと前向きに

とらえ、ホタルに並び名

高いヒガンバナや、かつ

て殿様に献上されていた

窪野米なども活用した地

域おこしを構想。ノート

にはびっしりとプランが

書き込まれている。「私

が率先して取り組まない

と。窪野では

一番若手なの

で」と笑う。

